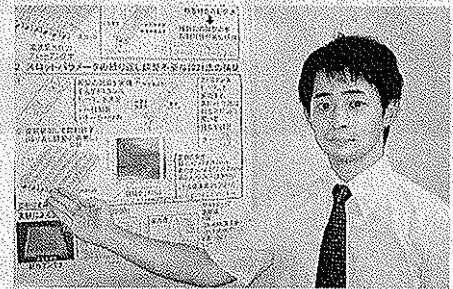


【第三种郵便物認可】

日本の電子工学の第一人者で発明家の安藤博士の功績にちなんで1987年に創設された「安藤博記念学術奨励賞」。茨城大学電気電子工学科助教の鈴木健仁さん(29)は、若手研究者の登竜門とされる同賞を茨城大学の教員として初めて受賞した。受賞テーマは「高周波アンテナの電磁界解析」。成果が認められ、徐々に研究費がつくようになったが、「研究者としては駆け出しの身。やるべきことはたくさんある」と新たな発見を求める毎日だ。

### 多士多々



茨城大学工学部助教  
鈴木 健仁さん

すずき・たけひと 1981年横浜市生まれ。2004年東工大工学部卒、同大学院博士課程を経て、09年茨城大工学部助教。専攻は電気電子工学。年などの任期付きで募集するケースが多いが、茨城大は期限なしの好条件だった。募集枠1人の難関をくぐり09年4月に着任した。研究室開設から間がない

## 電磁波研究 目標は高く

ANなどに使われる。テラ 2009年、折しも企業やヘルツ波は光と電波の中間に位置しており、これから用途開発が進むと期待される。現在は、効率よくミリ波を流すためのアンテナの改良などに取り組み。博士課程の修了を控えたり、迷わず応募。大学は3

### 地元と連携「発展に貢献したい」

と実感する。栃木県の通信関連企業との共同研究を進める。キャンパスのある日立市は日立製作所グループの工場が集積し、高い技術力を持つ製造業が多い。今後はこうした企業との連携を増やしなから「地域産業の発展に貢献したい」と話す。

研究室には2人の学生が在籍し、来春にはさらに数人増える予定だ。「1人でできることには限界がある。研究室に必要なのはチームワークとやる気のある学生の確保」と強調する。

ミリ波アンテナなどを生かした「超高速・大容量の通信技術の確立」が研究室の目標。実現に向けて地域や学生らと連携し、「質の高い研究を続けていきたい」と目を輝かせている。



# 茨城

谷水 隆